―主婦のアイデア―私はこうしています

白石友の会　立田佐代子さん（西益岡町）

●食器を洗うときは、不用になったレースカーテン生地をふきんの大きさに切って、スポンジ代わりに利用しています。驚くほど汚れが落ちます。水はけが良く、衛生的で使いやすいです。

●食器の食べ残しなどをふきとるのに、使い古しの布などが使われているようですが、私がお勧めしたいのは、ケーキ作りなどに使われる「ゴムべら」です。これで食器の汚れをまとめて取ることができ、大変便利で、しかも洗剤や水の量も少なくてすみます。

●米のとぎ汁は、そのまま流すと水質汚濁の原因になるので、植木の水やりや家庭菜園にまいています。

●水量は鉛筆の太さぐらい、ため水ためすぎを徹底しています。

水は限りある資源ですから、普段の生活の中で、創意工夫をしながら生活スタイルを見直すことが、とても大事なことだと思います。

白石友の会……全国組織の婦人之友の愛読者の集まりで、環境を考慮しながら、『衣・食・住・家計』の生活勉強に励んでいる団体です。現在、三十代から七十代の会員が活動しています。

問い合わせ　立田☎25―5443

環境一口メモ ―生ごみの処理―

生ごみは現在、可燃ごみとして焼却処理されていますが、ダイオキシンなど有害物質の発生につながるとされ、処理方法が全国で課題になっています。

白石市では、生ごみをバイオ技術の駆使によって資源化（メタンガス）し、得られたエネルギーを、農業用温室や学校給食センターの熱源などに活用する「食品リサイクル事業」の実施に向けて準備を進めています。

当面は学校給食やホテル、事業所などから出される残飯などの生ごみが対象ですが、一般家庭の生ごみについても処理方法が検討されています。

自然との共生を学ぶ〝めだかの学校〟

めだかの学校は、自然に触れあう機会が少なくなった子供たちを生徒に、昔、白石川周辺で水遊びを体験している大人たちが先生になり、川での自由な遊びを通して、「水」や「自然環境」の大切さを学び、考えるイベントとして、毎年七月の最終日曜日に白石川緑地公園で開校されています。

魚捕り指南（やさしく魚を手づかみする方法を学ぶ）、野外料理指南（捕まえた魚を料理）、冒険川下り（タイヤチューブを浮き輪にして、川の流れの強弱を学ぶ）などの授業が行われ、毎年二千人を超える親子連れなどが参加しています。

毎年大勢の子供たちでにぎわう魚捕り指南

川を、水を大切にする心を育てたい

めだかの学校実行委員会　委員長　山崎憲一さん（大川町）

開校式であいさつをする山崎さん

昔は、川で遊ぶには当然なこととして「川を汚さない、水を汚さない」というルールがありました。それは上級生から下級生へと伝えられていきました。めだかの学校を始めたのは、今の子供たちにも川や水の大切さを教えたいという思いがあったからなんです。

子供たちに直接川に入ってもらい、魚を捕まえたり、タイヤチューブに乗って泳いだりすることで、「汚い川よりはきれいな川の方がいい、人は自然と仲良くしないと生きてはいけない」。こんな思いを素肌で感じていただければと願っています。これからも、この学校を通して、子供たちの川や水を大切にする心を育てていきたいと思います。

おいしくて安全な「水」を子孫に残すために

四季折々に移り変わる自然の表情や、潤いのある人々の暮らしは、豊かな水の恵みによってもたらされています。

「白石三白」といわれる温麺、和紙、くず粉のいずれもが清らかな水に支えられて発達してきました。

産業が発展し、私たちの生活はとても便利になりました。その一方で、海や川、湖が汚され、自然はバランスを崩し、きれいな水の大切さが叫ばれるようになりました。

私たちは今、大都市に比べておいしくて安全な水を飲用していますが、これらはすべて、白石の財産のひとつ、豊かな自然、そして蔵王山によってもたらされてきました。

私たちの子供たちも、またその子供たちも、これからずっと飲んでいかなければならない水。私たち人間すべての共通財産である水は、私たち自身の手で守り、子供たちに引き継いでいかなければなりません。

環境を考えるというと、とても大げさな、地球規模のことのように聞こえますが、実際はとても小さな身の回りのことからあらゆることが始まります。

私たちのすぐ身近なちょっとしたことに、ほんの少し手間をかけたり、ささいな不便を我慢したりすることが、最終的にはおいしくて安全な水を確保することにつながってくるのです。

最初はちょっとつらいかもしれません。でも、慣れてしまえば、環境にやさしいライフスタイルが、きっと、皆さんの心や生活に、ゆとりをもたらしてくれるに違いありません。

未来を担う子供たちに、おいしくて安全な水をずっと残すために、今、私たちにできること、それは、「水のある暮らしは当たり前」ではなく、「水は暮らしに欠かすことのできないもの」として、自然と共にある暮らしをもう一度見つめ直し、「水」を大切にする努力を続けてゆくことではないでしょうか。

早速今日から環境にやさしい、水にやさしい生活を始めてみましょう。

二ツ森水源近くの清流